



## 指導員(小野中学校教諭)

竹川 秀樹

初めてのアメリカの地で、現地の方々の温かさや大らかさを感じてきました。彼らはいつも笑顔で人と接し、笑い声を絶やさず、よく食べます。失敗を気にせず、前へと進んでいきます。そして、人とのコミュニケーションをととても楽しんでいきます。人と関わり、人を理解するという点で、とても大事なことを学ぶことができました。

教員という立場で振り返ると、「広い視野をもち」「物怖じせずに自分から行動でき」「人の気持ちの分かる」子どもを育てていきたいと強く感じました。世界に、そして地域に貢献できる子どもたちの育成に今後も努めてまいります。

このような機会をいただけたことに感謝申し上げます。



ホストファミリーと(中央)

## 団長(教育課長)

吉田 吉広

25回目となる当事業は、平成の初めから今年まで、さまざまな方のご尽力により続けてくることができました。参加団員は16人で、全員が多くの有形無形のお土産を持って元気に帰町できたことは、引率者としてこの上ない喜びであります。ホームステイを行いながら、現地の公共施設の研修や今回は新たに老人福祉施設入所者との交流なども行いました。海外旅行が身近になった今でも、このような研修は貴重であり、多感な時期にこのような機会を得られたことは、団員にとって有意義な経験になったと引率者として自負しています。

人工知能やロボットの発達・普及により働き方が変化し、少子高齢化・人口減少により外国人労働者が国内へ流入するなど、社会生活が大きく変化していく中で、今回の経験をとおして新たな発想が生まれ、それらが生活を共にする隣人にも伝わることを期待し、研修の総括とします。



引率者の3人

## 「アメリカに行って」

2年1組 渡邊 柚稀

今回の研修が始まる前は、アメリカの方々とコミュニケーションがとれるか心配でしたが、私たちが温かく迎えてくださり、安心して過ごすことができ、グレンロックと小野町の友好的なつながりの深さを感じることができました。

私のホストファミリーは日本人だったので、海外で生活する日本人の様子を知ることができました。研修中は自分で考え、自分から行動することを心掛け、目標にして意識することで、行動に移せるようになりました。

私は、今回の研修で日本では経験できないことを経験し、たくさんの感動がありました。研修で学んだことを生活や学習に生かしていきたいです。



ホストファミリーと(右)



奉仕作業後に(左)